

◆ 今週のコメント

- ・ 風しん(臨床診断例)の報告が1例(女性, 10歳未満)あり, 本年初めての報告となっています。平成24年から平成25年にかけて全国で風しんの流行があり, 京都市でも20代から40代の男性を中心に多くの報告がみられました。これらの患者のワクチン接種状況を見ると, ワクチン未接種あるいは接種歴不明が全体の約95%を占めていました。風しんは「ワクチンで防ぐことができる病気」ですので, 風しんの流行を抑えるためには, ワクチン接種による予防が最も重要となります。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.05(43例)で, 本年度で最も多い報告数となっており, 過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 全数把握対象疾患の追加, 変更について

平成26年9月9日付で, 厚生労働省から, 「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について」の通知がありました。改正により, 平成26年9月19日から, 「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数報告)に追加されました。また, 五類感染症の届出基準が一部変更され, 「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数報告対象疾患になりました。詳細は下記ホームページをご覧ください。

○厚生労働省ホームページ「感染症法に基づく医師の届出のお願い」

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou11/01.html>

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 3例(肺結核 2例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 283例(肺結核 141例, その他結核 72例, 潜在性結核感染者 70例)うち喀痰塗抹陽性 72例】
- ・ 三類: 腸管出血性大腸菌感染症 1例(第36週追加)【1月以降の累積報告数 22例】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- ・ 五類: 風しん(臨床診断例) 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

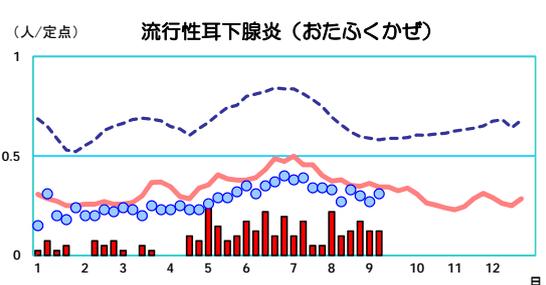
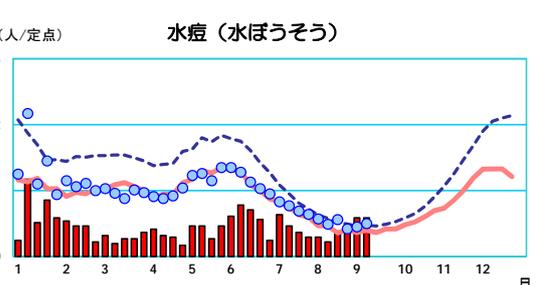
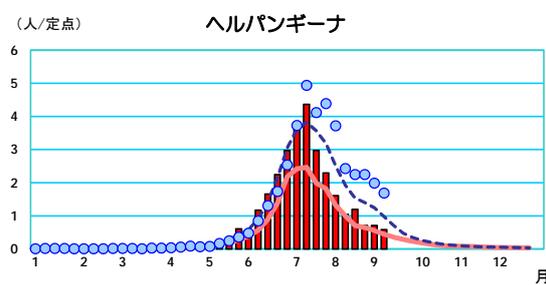
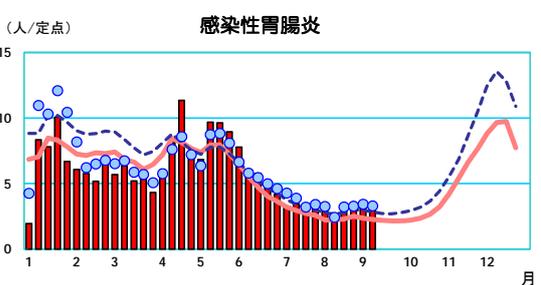
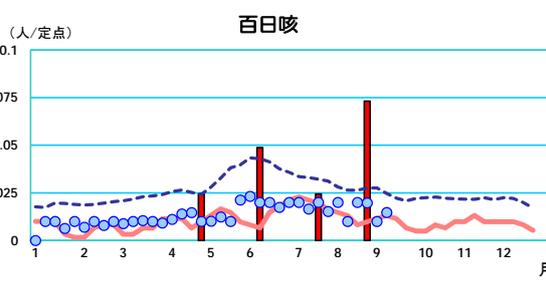
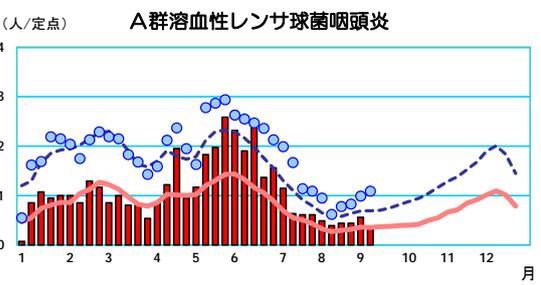
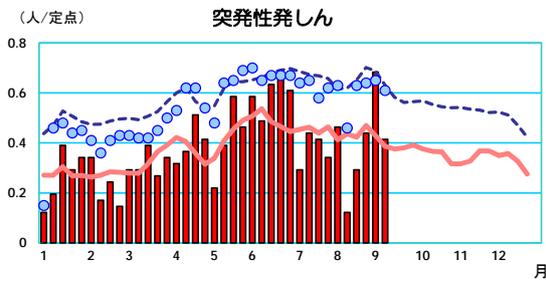
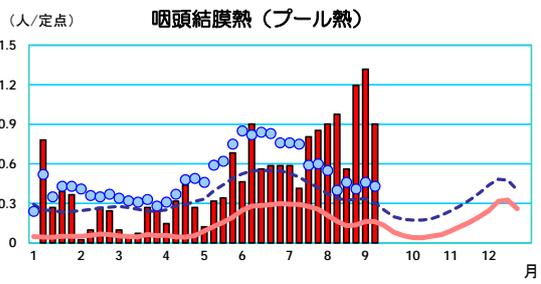
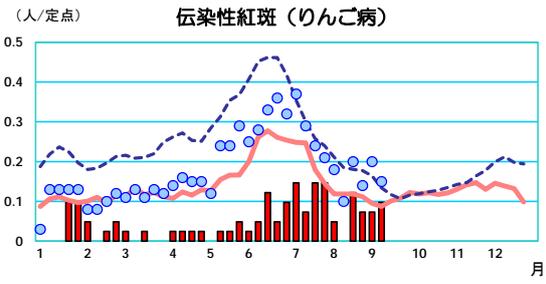
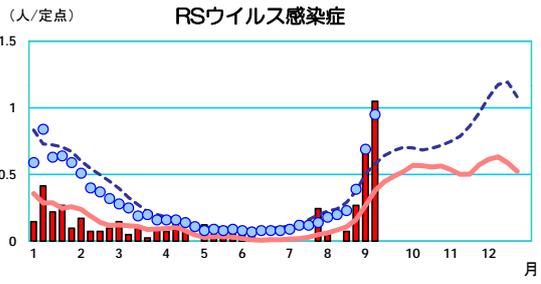
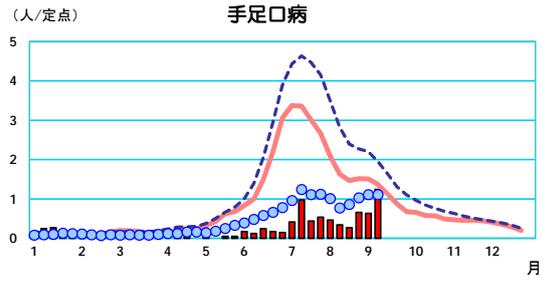
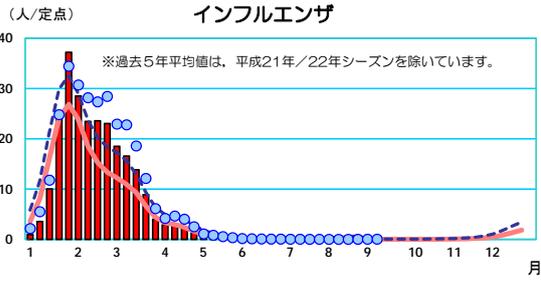
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.20	131
	② 手足口病	1.24	51
	③ RSウイルス感染症	1.05	43
	④ 咽頭結膜熱	0.90	37
	⑤ 水痘	0.59	24
	⑤ ヘルパンギーナ	0.59	24
眼科	流行性角結膜炎	1.30	13

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注) 京都市のデータは, 平成26年9月18日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）



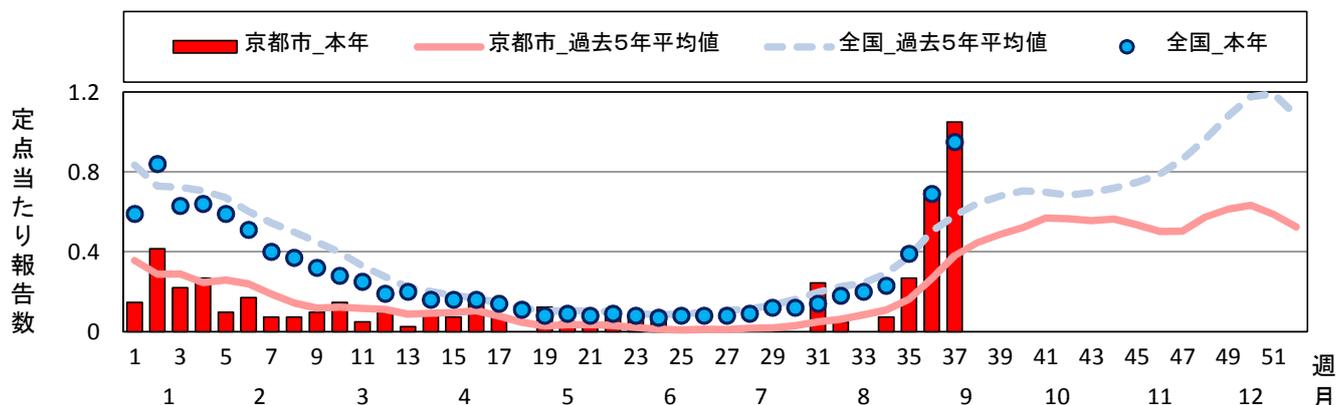
第37週(9月8日～9月14日)トピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.05(43例)で、本年度で最も多い報告数となっており、過去5年平均値を大きく上回っています。また、「感染症法」において定点把握対象に指定された平成16年以降の同時期と比較して、最も多い報告数となっています。

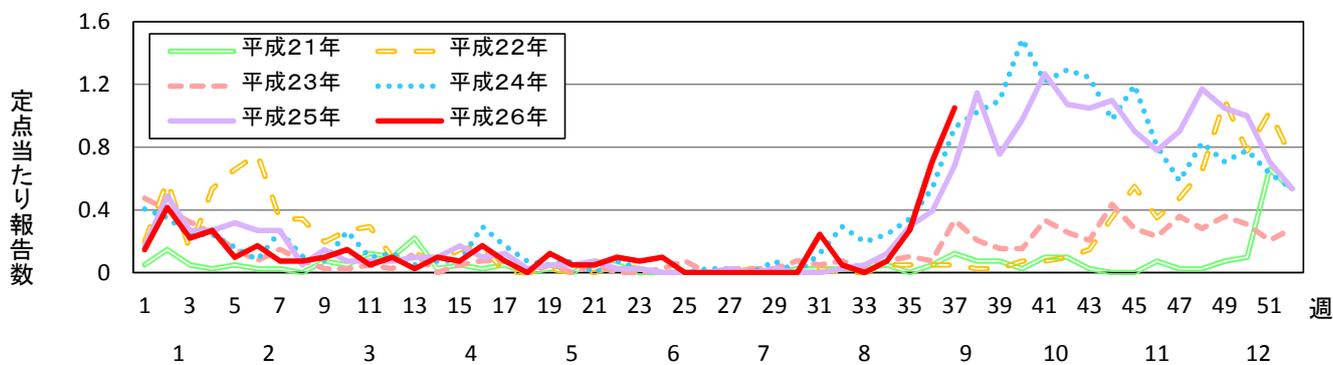
平成22年まで秋から冬にかけて流行していましたが、平成23年以降、3年連続して夏頃から報告数が増加しており、本年度も第34週(8月18日～8月24日)以降、4週連続で増加しています。全国では7週連続で増加しており、42の都道府県において前週より増加しています。

RSウイルス感染症は呼吸器の感染症で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。症状としては、軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。乳幼児で重症化しやすく、特に乳児期早期(生後数週間～数カ月間)に初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。このような子供がいる場合、咳などの呼吸器症状がある年長児や成人は、感染させないようにマスクを着用するなどの注意が必要です。

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

